

序

学 校 長 仲 新

ここに本校紀要第2集を世に送ることになった。思えば本校は旧岡崎高等師範学校の附属中学校として発足し、その後名古屋大学教育学部の附属学校となり、豊川から名古屋への移転を完了してようやく現在の体制で運営されるようになったのは昨年4月からである。その間本校は苦難の道を歩いて来たといつてよいであろう。その中にあるいろいろな障害とたゞかいながら研究が積まれていたと思われるが、その成果は紀要第1集として昨年12月発表せられた。これは私の就任以前のことである。この第1集に見られる研究上の一つの特色は共同研究という形式であると思う。私の就任後も共同研究の体制はいよいよおし進められ、更に学部との共同研究組織が最近に至りようやく確立を見るに至った。第3集にはその成果の一部も発表できるように研究を進めたいと思っている。

この紀要第2集に収録したものは第1集後の本校における研究成果であり、その主要部分は、(1)共同研究、(2)各個研究からなっている。このほか学部が本校において行った研究の一部を紹介する意味で、(3)協力研究抄報を載せ、また(4)雑報として、本校における研究会の記録と先に述べた学部との共同研究の題目及び研究組織を掲げている。第1部をなす共同研究は第1集に収めたものの継続研究である。第1集の「高校入学試験の成績を通じて見た中学校教育の問題点」の後をうけて「高校新入学生徒を通じてみた中学校教科教育の問題点」が取扱われている。次に「国語・数学・英語における学業不振児の指導に関する研究」は第1集で行った第1報告の後をうけて第2報告をなすものである。第2部をなす各個研究は各教科毎の共同研究ならびに個人研究であり、ここでも共同研究が一つの特色をなしている。しかし題目の性質上個人研究を主とすべきものもあり、また共同研究が結局個人の充実した研究を基礎としていることを考えれば、個人研究は今後も益々重視すべきものと思っている。

ここに紀要第2集を送るにあたり、その経過と私の所感を述べ、本校の未熟あるいは未完成の研究に対して世の批判と御指導を期待する次第である。